

静岡文化芸術大学図書館・情報センターだより

新 知 人 温 故

Shizuoka University of Art and Culture Library News

2006.7 Vol.7

平成18年7月発行

発行所 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター
〒430-8533 浜松市中央二丁目1番1号
TEL(053)457-6124 FAX(053)457-6125
http://www.suac.ac.jp/lib/index.html

Contents

表紙

『ヴィナスの誕生』—— ①

巻頭言

本との出会い・対話・ イメージの喚起、 そして図書館

—— ②

図書館・情報センター長
デザイン学部 生産造形学科 教授
伊坂 正人

図書館散歩

ミステリーを楽しむ —— ③

文化政策学部 文化政策学科 教授
種田 明

シリーズ

図書館・情報センターを使いこなそう! 大宅壮一文庫雑誌記事索引検索WEB版 「Web OYA-bunko」編 ④

知っていますか?こんなサービス —— ⑥



『ヴィナスの誕生』 Botticelli 画 1485年頃 カンヴァス テンペラ 172.5x278.5cm
高階秀爾、鈴木杜幾子編著「ボッティチェリ全作品」中央公論美術出版、2005（723.37/B66）

海の泡から生まれたヴィナスが、ニフのクロリスを抱いた愛の西風ゼフェロスの発する息吹、薔薇の花を撒き散らす風のまにまにこの世界の岸辺に到着し、待ち受けていた「時」のニフ、ホーラが裸身を恥らう女神に衣服を着せ掛けようとする。

Sandro Botticelli (1444/45 - 1510)

イタリア・ルネサンスの代表的画家の一人。フィレンツェに生まれ、金銀細工師の見習い、次いでフィリッポ・リッピの工房等で修業し、1481～82年システィナ礼拝堂壁画を他の画家たちと競作した。

彼が描く女神の風に靡く金髪は限りなく細い金線のような輝きを見せ、柔らかかなうねりを示す肉体は、精練され純化された白金線のような強靱精緻な輪郭線を持つ。しかし、その厳しい「硬い様式」は、レオナルドの絶妙な「ぼかし」や、ヴェネツィア派の重厚多彩な表現が支配的であったヴァザーリの時代には、既に一昔前のものとなっていた。メディチ家の繁栄が終わりを告げ、レオナルドやミケランジェロ等がミラノやローマに移る中、ひとりフィレンツェにとどまり、いわばこの町の栄光に殉じたのである。

ボッティチェリは古典ギリシアを恋い慕う本質的には中世の人であった。ネオ・プラトニズムにより古典ギリシアに惹かれるが、後にサヴォナローラの禁欲的な宗派に改宗し、晩年に神秘的な沈黙で終え、このことは、彼の芸術と生涯の全てをまことに象徴している。

宗教的であると同時に感覚的な彼の想像力の中では、ヴィナスは二重に人を当惑させる像として現われたに違いない。いわば美しい罪に懊悩する彼の魂は、打ち震えながらも夢見がちなヴィナスのうちに映し出されているように思われる。

(矢代幸雄著「サンドロ・ボッティチェリ」岩波書店1977、前掲「ボッティチェリ全作品」参照)



図書館・情報センター長
デザイン学部 生産造形学科 教授
伊坂 正人
Isaka Masato

文中に登場した図書

ゲーテ著(菊地栄一訳)
色彩論
081 / lw51 / 407-4

ゲーテ著(高橋義人ほか訳)
色彩論(完訳版)
757.3 / G56 / 1-3

ヨハン・エッセルマン著(山下筆訳)
ゲーテとの対話
081 / lw5 / 1191-1193

ノバート・ウィナー著(池原止弐ほか共訳)
サイバネティクス
401 / W 72-1

ノバート・ウィナー著(池原止弐夫訳)
人間機械論
401 / W72-2

ウィリアム・ギブソン著
ニューロマンサー
933.97 / G42

フリリップ・K・ディック著
アンドロイドは電気羊の
夢を見るか?
933.97 / D72

藤沢周平著
蝉しぐれ
913.6 / F66

池波正太郎著
原っぱ
913.6 / I34

北原亜以子著
恋忘れ草
913.6 / Ki64



本との出あい・対話・イメージの喚起、そして図書館

私の学生時代、40年ほど前になる。古本屋の岩波文庫の書棚の中にゲーテの「色彩論」を見つけた。英文素読の授業でギョオーテとやってしまった、あのゲーテが色の話を?ということを買って読み始めた。買った時点で黄ばんでおり、今では触るのが怖くになってしまう本となってしまった。私の所属していた工学部の中のデザイン科(工業意匠科)で教えていた色彩論は、色彩技術に力点が置かれていた。ニュートンに象徴される近代合理と位相を変えた色と感性、文化との関わりを、ゲーテから改めて教えられた。読みながら「あ～そうか、いやまてよ、それはないだろう」とか呟きながら読んだ覚えがある。

本は時代を超えて著者と対話することのできる媒体である。また同時代であっても、空間を超えてじっくり対話することができる。ゲーテやニュートンと色について対話する、まさに贅沢な時間を本が与えてくれた。(そういえば岩波文庫に、ヨハン・エッセルマンの翻訳本で「ゲーテとの対話」という本があった。)

同じ頃、ノバート・ウィナーの「サイバネティクス」、「人間機械論」の翻訳本を読んだ。制御工学の書だが、機械と人間の接近に対する論は、当時読みあさっていたハヤカワや創元社のSF小説にリアリティーを持ちこんでくれた。SFで思うことは、私だけかも知れないが、映画(どんなに特撮やCGを駆使しても)で創造された表現は、本から触発された想像(イメージ)の世界を超えられないということである。映像に現実感を与えれば与えるほどその傾向は強い。サイバーパンクの代表であるウィリアム・ギブソンの「ニューロマンサー」(私の出身地であるチバノ千葉を舞台にしている。もっとも彼は行ったことがないそうだが)は、それをもとにつくったと言われる映画「マトリクス」より臭いもテクスチャーもある強いイメージを感じとることができた。よくできた映画「ブレッドランナー」の原作フリリップ・K・ディックの「アンドロイドは電気羊の夢を見るか?」もしかりである。映画で想像力を喚起させるには、キューブリックのような難解な表現がいるのかも知れない。この想像という点で最近ハマっているのが江戸時代小説である。藤沢周平や池波正太郎、北原亜以子(さらにあげれば、宇江佐真理、乙川優三郎、諸田玲子、山本一力等々)の小説からは、江戸の町の埃ぼさ(雨の日は泥濘)や木戸をくぐった裏店の臭い(厠の臭いなど)を感じ取ることができる。このへんも映画では表現できないところだろう。

専門の分野ではあるが何冊か本を書いた。原稿を書きながら思うことは、こんなことを書いたら読者は何と言うだろうか。私だけかも知れないが、ぶつぶつ言いながら原稿を書く。本を書く側も、書きながら読者と対話をしている。いまある団体が仲間たちと子どもにデザインを分かってもらい児童書づくりの企画を進めている。その企画のたたき台をつくるときも、架空の子どもたちと話をしながら案を検討している。そんな思いがあるせいか、書棚にある本から著者の囁きが聞こえるような気がする。その囁きの合間に、その本を読んだ読者の呟きが混ざる。そういうセンスをはたらかせると、図書館や本屋はかしましい空間に変質する。

かつて図書館システム(空間・什器システム、管理システム)のデザインプロジェクトを立案、推進していたとき、パリやロンドンの伝統的な図書館を見てまわった。ドーム型の高い天井の下、整然と並べられていた。そしてはかな時間、空間を超えた著者の囁きや読者の呟きがウーンと鳴り響いているような感じを得た。そして図書館とは単なる本の収蔵庫でなく、書籍文化を過去から未来へ伝えるまさに文化施設だと感じた。2005年の夏に東京の岩波ホールで上映された「輝ける青春」という映画を見た(何と上映時間6時間強、間にランチタイムが入る)。その中で洪水にみまわれたフィレンツェで市民やボランティアが図書館の本を救う場面があった。未来へ引き継ぐ資産としての本があった。

この図書館も公共図書館になると、北欧で見たことだが、学校帰りの子どもたちが息せき切ってカウンターの前に行き、司書のお姉さんたちと話しこんでいる。コミュニティの文化拠点の一つとして活用されていた。このとき、図書館は町中につくり、エントランスにブラウジングルームというただぶらぶらするだけで本の雰囲気浸る導入空間をつくることの意味を学んだ。対話する図書館である。書籍の収蔵もさることながら、人の要素が図書館をつくっている。そうしたことも含めて、本は人をつなげる文化と言える。



文化政策学部 文化政策学科 教授
種田 明
Oita Akira

文中に登場した図書

犬養道子著 ヨーロッパの心 081 / 1954 / 153
塩野七生著 メディチ家殺人事件 913.6 / Sh75
ウンベルト・エーコ著(河島英明訳) 薔薇の名前 973 / E19 / 1,2
エリス・ピーターズ著(大出健ほか訳) 修道士カドフェル・シリーズ 933.7 / P45 / 1-20
アリストテレス著(松浦嘉一訳) 詩學 081 / Iw51 / 258
宮田光雄著 キリスト教と笑い 081 / 1954 / 219
デイヴィッド・リス著(松下祥子訳) 珈琲相場師 933.97 / L68
デイヴィッド・リス著(松下祥子訳) 紙の迷宮 933.97 / L68 / 1-2
内田隆三著 探偵小説の社会学 902.3 / U14
ヴァルター・ベンヤミン著(今村仁司ほか訳) パサー・ジュ論 944 / B35 / 1-5
ジョン・ダニング著(宮脇孝雄訳) 死の蔵書 933.97 / D97
ジョン・ダニング著(宮脇孝雄訳) 幻の特装本 933.97 / D97
ジョン・ダニング著(宮脇孝雄訳) 失われし書庫 933.97 / D97
アーロン・エルキンズ著(青木久恵訳) 暗い森 933.97 / E47
カズオ・イシグロ著(入江真佐子訳) わたしたちが孤児だったころ 933.7 / I73
ケン・フォレット著(日暮雅通訳) モジリアーニ・スキャンダル 933.7 / F37

ミステリーの楽しみ

高校時代からミステリーが大好きで、私の濫読の一大領域でした。ミステリーといっても、「探偵がいて、推理の展開があり、時代と社会の香りがする小説」のことを言います。その頃は「俄かシャーロック」で、ドイツのほかE・クイン、クリスティ、ヴァン・ダイン、ドロシー・セイヤーズ、ロス・マクドナルドなどを片っ端から購読、あるいは図書館や友人から借りて乱読していただけたことでした。

大学教師になってからは、「地域研究(ヨーロッパ)」「ヨーロッパ社会史」などの講義を担当した時、中世・近世ものや諸外国のミステリーを“余談”(インターメッツォ)としても利用していました。その根拠・理由は、地域研究のテキストとした本の次の一節です：

「もっと身近い、もっと「程度の低い」探偵小説だってよいのである。風俗が出て、日常のしきたりが登場して、食べたり飲んだり品の品々が出て、ものの考え方や、しぐさなどもみんな出るから。「人間」が前面に出て来るから。」(犬養道子『ヨーロッパの心』)

これには大いに共感しました。内容・程度の高低の詮索は、いまここでは止めておきます。「中世にミステリー？」と不思議に思われる向きには、塩野七生『メディチ家殺人事件』、U・エーコ『薔薇の名前』、E・ピーターズの“修道士カドフェル”シリーズをまずは読んでみて下さい。(下線は種田)

エリス・ピーターズは1995年に死去、日本では彼女の死から2年後に、シリーズに3つある短編を編んだ『修道士カドフェルの出現』が刊行されました。短編に加え、11世紀後半～12世紀英国の状況、すなわち20巻に及ぶこの物語の背景；シュルーズベリ(地名)；シュルーズベリ大修道院；修道院の一日；シリーズに出てくる食べ物；シリーズに出てくる薬草・香草、などが解説されています。本シリーズから中世英国社会(史)を興味深く知ることができ、シュルーズベリへ行く機会があれば“カドフェル観光”も楽しめるのです。

『薔薇の名前』はショーン・コネリー主演の映画になり、DVDも出ているのでご存知の方も多いでしょう。カリキュラムが Semester 制になる以前は、通年の1コマをこの映画の観賞会にして、学生に大人気の「ヨーロッパ社会史」を講義していました。このミステリーの隠れたテーマの一つは“笑い”です。「イエスが笑われた」と書かれたアリストテレスの『詩学・第二部』(第一部は実在、第二部は実在しない著作)が、匿名の“あの僧院”の秘密の部屋にたった1冊だけ秘蔵されていて、読んだ者、秘密を知ってしまった者が次々と殺されていく物語です。イエスが本当に笑ったかどうかは判りませんが、ユーモアはあった(宮田光雄『キリスト教と笑い』)ようです。

古代ローマ帝国から中世の地中海世界を壮大に紡ぎ出す塩野ワールドにも、ミステリー仕立ての作品(上記)がありました。塩野ワールドはここでは割愛し、近世を舞台にした逸品を紹介しましょう。D・リスの『珈琲相場師』(17世紀のアムステルダムが舞台、砂糖と珈琲の相場のからくり)と『紙の迷宮』(18世紀初頭ロンドン、南海泡沫事件の謎)の2冊は、学術的裏づけある素材・資料を使ってヨーロッパの歴史の流れ；先物相場、株取引、ユダヤ人の生き方などを活写しています。塩野さんの資料・文献渉猟は夙に知られていますが、リスも大学院生として博士論文準備中にその資料を用いて『紙の迷宮』を書いて大当たり、学位は諦め(代りに奥さんが教授となったとき)作家に転身したそうです。

内田隆三は『探偵小説の社会学』において、ヴァルター・ベンヤミンの「パサー・ジュ論を援用し“探偵のディスクール”を論じています。学術上の分析は内田さんに任せて、現代アメリカ人作家2人のミステリーをお勧めします。J・ダニングの『死の蔵書』、『幻の特装本』、『失われし書庫』(古書店主クリフ・ジェーンウェイの書誌探偵シリーズ)と、A・エルキンズの『暗い森』(に始まる形質人類学者ギデオ・オリヴァーのスケルトン探偵シリーズ、現在まで12作、訳書は10作)および『偽りの名画』ほか(美術館学芸員探偵シリーズ3作と、第2次世界大戦時にナチスが強奪した名画を扱った『略奪』)は一級品です。これらの作品は、書誌学や人類学・美術史に関し、学者にはない視点(オリヴァーは大学教授だがドジばかり)からアプローチし、しかも小説として面白いこと請け合いです。

犬養さんは「社会学と麗々しく銘打たれた(日本人の書いた)書物を読むよりは、名作、小作あわせて、小説を、詩を、日記文学を読む方がよほど社会がわかるというものである」(前出『ヨーロッパの心』)と、ドイツ社会経済史専攻の私には耳の痛い所を突いています。学生諸君が読書に勤しめば、“教員商売”は上がったります。本学の学生諸君には、社会がわかる「探偵」小説として、カズオ・イシグロ『わたしたちが孤児だったころ』やケン・フォレット『モジリアーニ・スキャンダル』なども見逃せない作品です。

ミステリーは、私を未知の世界に案内し、人と社会を理解し、事件の背後を論証し推理する“楽しみ”を与えてくれる栄養剤なのです。次の学会出張時、また夏休みには何を読もうか、どんな新作が店頭にあるかな、と今からワクワクし本屋をのぞくのが待ち遠しくてたまりません。

大宅壮一文庫雑誌記事索引検索WEB版「Web OYA-bunko」編

Web OYA-bunkoの概要

国内唯一の雑誌図書館『大宅壮一文庫』の雑誌記事索引をWEB上で検索できます。
 学術雑誌記事が中心のCiNiiやMagazineplusと異なり、一般雑誌の記事を検索するため、現代社会をテーマにした調査研究、卒業論文の参考資料の検索ツールとして大いに活用できます。
 学内1アクセス

収録データ(2006年4月現在)

収録索引件数:約240万件(1988年以降の雑誌記事索引)
 毎月約15,000件増加します。
 収録人名件数:約93,000人。年間約4,000人増加します。
 件名項目数:約7,000項目
 件名キーワード:約70,000語
 収録雑誌数:約1,100誌

OYA-Webへの入り方

- 1 学内ホームページ 図書館・情報センター リンク集 学内限定データベースからログインします。

画面 1

ログインはここをクリック

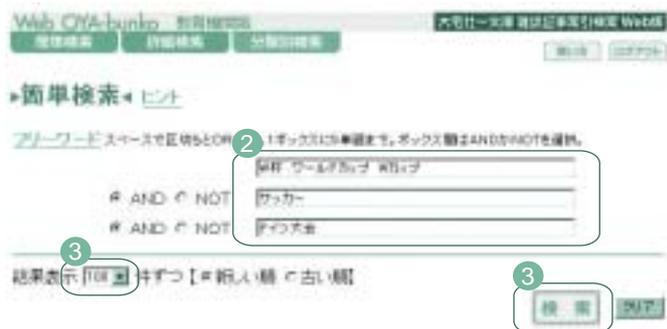


簡単検索トップ画面

ここでは「ワールドカップサッカー ドイツ大会」に関する記事を探してみます。

- 2 “ワールドカップ”や“W杯” “Wカップ”など表記のゆれが予想されるため、複数入力します。
- 3 表示件数を100件にして検索します。

画面 2



簡単検索

フリーワードで記事タイトルを全文検索できます。複数の検索語でAND・OR・NOT検索も可能です。

1番上の検索窓に複数キーワードを入力するとOR検索になります。

検索範囲は記事タイトルのほか、人物名・肩書・人名キーワード・件名キーワードも対象に含まれています。

検索結果画面

- 4 検索結果から記事が掲載されている雑誌名と発行日、掲載ページがわかります。また、検索に使われたキーワードが赤字で表示されます。

画面 3



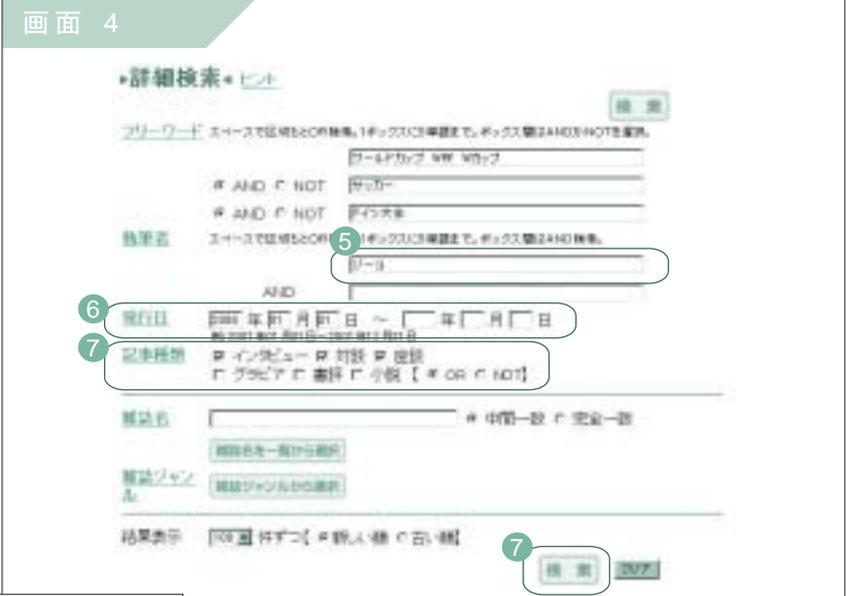
〈シリーズ〉 図書館・情報センターを使いこなそう！⑦

詳細検索トップ画面

簡単検索での検索結果件数が多い場合、詳細検索で絞り込むと便利です。

例)今年1月以降のジコ監督に対するインタビュー、または対談に関する記事を検索する場合

- ⑤ 執筆者には「ジコ」を入力
- ⑥ 発行日を2006.1.1以降に指定
- ⑦ 記事種類は「インタビュー」・「対談」・「座談」をOR選択

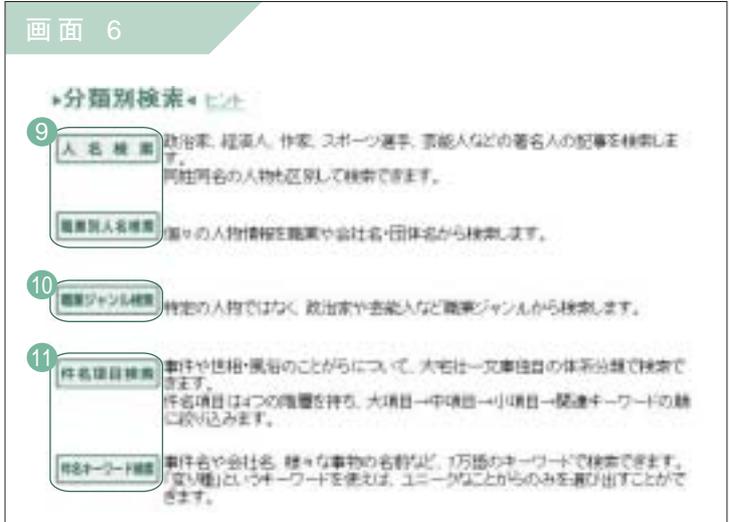


詳細検索
 「簡単検索」に加えて
 ①「執筆者」
 (対談・座談の場合、「発言者」)
 ②発行日
 ③記事内容
 ④雑誌名
 ⑤雑誌ジャンル
 から絞り込むことができます。(各項目間はAND検索)

⑧ 検索結果は「6件」に絞られました。

分類別検索トップ画面

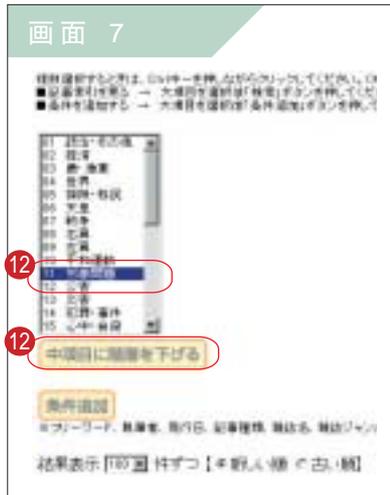
- ⑨ 「人名検索」・「職業別人名検索」
ある特定の人物に関する記事に有効。“略歴” “趣味” “人脈”などの23の「人名キーワード」による絞り込みも可能。
- ⑩ 「職業ジャンル検索」
複数人物の掲載記事を「掲載雑誌名」「執筆者」「発行日」から絞り込みが可能。
- ⑪ 「件名項目検索」・「件名キーワード検索」
あることからに関する記事を検索するのに有効。件名を探しながら記事を検索するには「件名項目検索」、件名を直接検索するには「件名キーワード検索」が有効です。



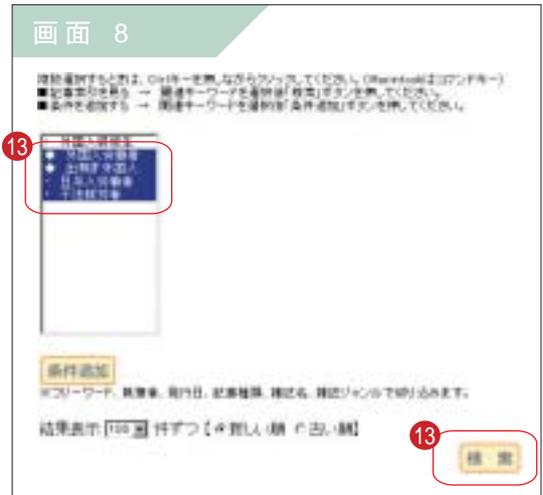
分類別検索
 各雑誌記事には大宅壮一文庫独自の分類・件名が付けられています。「分類別検索」では分類・件名を検索するため、「フリーワード検索」に比べて、より精度の高い検索を行うことができます。

〈シリーズ〉 図書館・情報センターを使いこなそう！⑦

12 「件名項目検索」を使って「外国人労働問題」に関する記事を探してみましょう。分類項目から「労働問題」を選択し、(中項目でも同様)小項目で「外国人労働者」の項目が現れます。



13 最終的に関係のありそうな項目を複数選択し検索します。



14 567件ヒットしました。

「フリーワード検索」で検索すると・・・
「外国人労働問題」・・・3件ヒット
「外国人」and「労働問題」・・・40件ヒット



《記事の閲覧について》

OPAC検索した上で、本学が所蔵していない記事は文献複写で取り寄せることができます。複写の受付はカウンターで行います。記事詳細情報を用意して下さい。複写には複写代・郵送費が発生します。最近の記事は公共図書館で閲覧・入手できる場合があります。収録記事雑誌を「おうだんくん」で検索すると県内の所蔵が一度にわかります。

知っていますか？こんなサービス

他大学図書館等利用について

他大学を訪問して資料の閲覧を行う場合には「他大学図書館等利用紹介状」を発行します。カウンターで申込書に必要事項を記入して下さい。

- 1 「利用資料」欄について
利用希望資料名を明記してください。
複数ある場合は列挙してください。
事前に訪問先大学のOPACで利用希望資料の所蔵と所在を確認してください。
- 2 「期間」欄について
訪問期間中の休館日・開館時間を事前に調べてください。
参考)日本国内の大学図書館関係WWWサーバ
http://www.libra.titech.ac.jp/libraries_Japan.html

申込上の注意

丁寧な文字で記入して下さい。
紹介状の受付当日発行はできません。余裕を持って申し込んでください。
東海地区大学図書館協議会加盟大学を訪問する場合、紹介状は不要です。必ず学生証を持参してください。
訪問先の規則を遵守してください。守られない場合、利用を拒否される場合があります。

平成 年 月 日

様

静岡文化芸術大学
図書館・情報センター長

他大学図書館等利用紹介状申込書

上記の図書館の資料を閲覧しなく、紹介状の発行を申し込みます。利用に際しては、学生証もしくは身分証明書を持参し、利用館の閲覧規定に従い閲覧しますので、よろしくお願い致します。

記

1. 氏名
2. 住所
3. 身分
4. 所属
5. 利用資料
6. 期間

図書館情報センター長	室長	担当	受付